

MEMBER (25~27期)

Flute & Piccolo

1年 中館加代
中中山美紀
2年 淡田喜代美
中島雪乃
3年 片桐温子
三田恵子
椎谷佳世

Oboe

3年 岩本真理

Clarinet

1年 野瀬弓子
穂坂友紀
2年 森林文代
柴田順子
3年 坂村純子
瀬谷智子
浦部有香里
高階香美
船生朋美
飯塚幸津子
大泉菜とみ
渡辺妙子
中田綾子
飯野麻美

Saxophone

1年 北聖子
2年 篠崎明美
3年 高城和陽
秋葉介
松元香
渡辺貴子

Trumpet

1年 葦塚靖代
水谷千里賀
2年 浜田里恵
佐藤米子
3年 寺原美由紀
富田美紀
稲川直利

Horn

1年 西村富実枝
2年 中込智美
3年 町田百合子
本橋康弘
鈴木ゆかり
小林悦子

Euphonium

1年 村山明美
2年 佐々木通江
3年 矢作直子
内藤紀子

Trombone

1年 佐々木裕美
坂本富佐
2年 和田千詠子
3年 遠藤胡蝶
高橋胡かおり
福山公子
鶴谷子

Tuba

3年 三井啓吾

Kontra-Bass

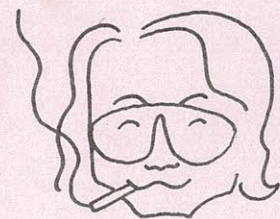
1年 篠原由紀
2年 吉田亜希子
3年 中島和美
瀬尾みさお

Percussion

1年 木村寿美代
高橋三工
2年 佐野広美
小山室葉子
3年 山高佳代
松本延江
千葉直子

Conductor

生沢広次

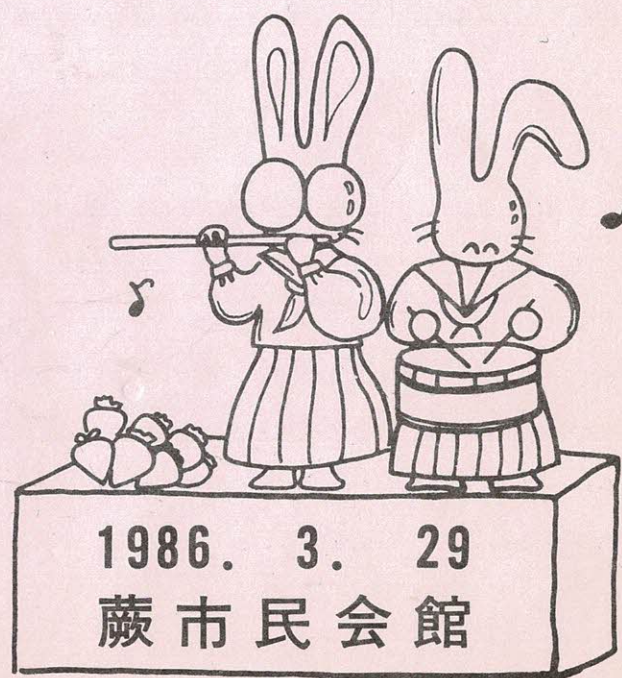


川口市立芝中学校吹奏楽部

創部25周年記念

第13回

定期演奏会



1986. 3. 29
蕨市民会館

ご あ い さ つ

川口市立芝中学校長 田代好則

芝中40年の歴史の中で、輝かしい業績を積み上げてきた吹奏楽部が部創設25周年を記念して、ここに第13回の定期演奏会を開く運びとなりました。その間、OB諸君をはじめとして部員や保護者の方のご支援ご協力に心より感謝申し上げるとともに、そのご労苦に深く敬意を表する次第です。

ご承知のように本校の吹奏楽部は、部創設以来顧問の松井教諭、毒島教諭、そして、現顧問の生沢教諭の並々ならぬご努力と、その指導を懸命に受けとめてきたその時代時代の部員の汗の結晶が、今日の芝中吹奏楽部を作りあげてきております。その誇りと栄誉を担って今日の演奏を発表いたしますので、十分にその意をお汲みとりいただき、お聴きくだされば幸いに存じます。

顧 問 生 沢 広 次

14年目が終わる私の芝中生活で、最も重きをなしたのは“ブラバン”でした。時には生きがい、支えと言えるものでした。にもかかわらず私の指導は常に行き当たりばったりで、泥縄の連続で定演の3日前に曲が決まり、来年こそはもっと早くと思いながらも、くり返してきました。そんな状態を責めもせずについてきてくれた部員と、御協力くださったOB、保護者の皆様には心から感謝しています。特に今年は「週一顧問」以下の状態で、本日は冷汗びっしょりの演奏と思いますが、何卒御寛容の耳をもって最後までおつきあいいただきますようお願い申し上げます。

部 長 佐々木 通 江

本日は、お忙しい中、私達芝中学校吹奏楽部第13回定期演奏会においでいただき、誠にありがとうございます。私達の部は、1年生15人、2年生19人で現在活動しています。Part練習の時などは、おしゃべりなどして、ついつい遊んでしまったりします。Partどうしの仲がとても良く、ほんとに楽しい毎日です。合同練習の時は、皆ま^xじ^xめ(?)に練習しています。

生沢先生が言うには、私達は本番に強いとか……。さて、今日の定期演奏会はどうなりますか…!? 今年は部創立25周年記念なので盛大にもりあげたいと思います。お聞き苦しい所もあると思いますが、最後までゆっくりとお聞き下さい。

曲 目

- I アルヴァマー序曲……………バーンズ
コンサート ミニアチュア……………ミツチエル
アンセム フォー ウィンズ アンド パーカッション……………スミス
バックナール……………サン＝サーンズ

- II トランパーカッション……………コフィールド
コンチェルト グロツソ フォー チューバ……………ネリベル
ロマンス……………サン＝サーンズ
シボネー……………レクオーナ
コンドルは飛んで行く……………ロブレス
ムーンライト セレナーデ……………グレン・ミラー
ウェスト サイド ストーリー……………バーンスタイン

III 〈OB演奏〉

- 故郷……………奥村 一
八木節……………岩井直博(編)
イタリアン フェスティバル……………オッサー(編)
バンドのための民話……………コウディル
アクエリアス……………マクダーモット

〈合同演奏〉

- マスク……………マクベス
アンティフオナーレ……………ネリベル



I アルヴァマー序曲

コンクールや演奏会でよく聴くこの曲はアメリカの作曲家ジェームス＝バーンズの作品です。曲は激しく明るいA、ゆるやかで心を打つB、そしてA'の3部形式で構成されています。オーバーワークでくたびれないように心がけて演奏したいと思っています。

コンサート ミニアチュア

「序奏とファンタジア」「カプリス」「パノラマ」等の作品で知られるR・ミッチェルは、現在ペンシルベニア州のクラリオン・ステート・カレッジの音楽助教授です。曲は最初に表われるゆっくりとした二つのテーマの展開で構成されています。 $\frac{7}{4}$ 拍子のエネルギーギッシュな主題が印象的です。

アンセム フォー ウィンズ アンド パーカッション

「～とパーカッション」と言う程、打楽器中心の曲ではありません。壮麗な序奏に続き、軽快な変拍子を含む部分が曲の全体をしめています。中間部ではゆるやかなコラールが奏されます。

バッカナール

フランスの作曲家カミーユ・サン＝サーンスの歌劇「サムソンとデリラ」の中の管弦楽曲です。今年度のコンクールで自由曲としてとりあげた曲ですが、むずかしい編曲で苦労しました。弱拍から始まる主題や異国的情感のある旋律が特徴的です。

II トランパーカッション

文字通り、トランペットと打楽器が主役の曲です。作曲者のコフィールドは「トランペット・オーレ」「トロンボナンザ」等、独奏（重奏）とバンドのための楽しい曲を多く作っています。

コンチェルト グロッソ フォー チューバ

チューバ協奏曲というものではなく、チューバを始め、他の楽器も独奏的役割を持ちます。作曲者のネリベルは現代的響きの名曲を多数書いていますが、この曲は古典的形式感を重視して作られています。緩やかな第1楽章と元気な第2楽章からなります。

ロマンス

平易で明快な伴奏にのって独奏ホルンが歌います。派手さのない曲ですが、ホルンの音色をお楽しみ下さい。

シボネー

キューバの代表的作曲家、エルネスト・レクオーナが1929年に作曲した曲です。「シボネー」とは、この地のインディオの呼び名で、絶滅した種族の昔をしのんで曲にしたと思われます。

コンドルは飛んで行く

13～16世紀初めに栄えたインカ帝国の民謡をもとに作られたもので、三つの部分より成っています。大変ポピュラーな旋律は第2部に使われています。

ムーンライト セレナーデ

グレン・ミラー・オーケストラのテーマ曲と言える大ヒット曲です。ムーディーな響きが出せると良いのですが……。中間部にクラリネット・ソロがあります。

ウェスト サイド ストーリー

アメリカの現代作曲家で、大指揮者でピアニストでもあるレナード・バーンスタインのミュージカルから「トゥナイト」「マンボ」「アメリカ」の3曲メドレーです。

Ⅲ 故郷・八木節・イタリアンフェスティバル

ふた昔程前には毎年のように演奏されていたこれらの曲も、今日は十数年ぶりの再演となりました。行進曲「故郷」は芝中が埼玉国体の開会式に参加した時に演奏した曲でもあります。

バンドのための民謡・アクエリアス・マスク

生沢先生に御指導いただいた14年間で芝中が最も多く演奏したのがこの3曲でしょう。「民謡」はOBバンドが定演とコンクールに初めて参加した時に演奏した曲としても思い出の多い曲です。

アンティフォナーレ

25年の歴史の中で最も印象深い1曲といえば、この曲以外には考えられません。県東大会金賞、県代表、関東大会金賞と、すべてが初めてづくしの中で、われわれOBは「やればできる」ということを逆に教えられたものです。今日は高校を卒業したばかりの「関東メンバー」を多数加え、燃えた夏の再現に挑戦します。



芝中吹奏楽部25周年のあゆみ

5年毎にたどってみました。

<1960～65>

芝中吹奏楽部の創部は、東京オリンピックを4年後に控えた昭和35年のことで、当時は市内の中学にはほとんどブラスバンドがない時代でした。

1期 笠原 昇

芝中に吹奏楽部が誕生したのが、昭和35年5月であったと思います。それまではリード合奏（アコーディオン、ハーモニカ、木琴等）で音楽部として活動しておりました。この音楽部が大宮市で開催された県南地区器楽合奏研究発表会に参加し、浦和市立原山中学校吹奏楽部の演奏した行進曲、「国民の象徴」を聞き、雄壮な響きに感動し、帰校してからは是非芝中にも吹奏楽部を作ろうという事になり、当時顧問であった松井信子教諭と島村儀江校長の並々ならぬご尽力により、18名編成分の楽器が購入され、市内の中学校で初めての吹奏楽部が誕生した訳であり、島村、松井両先生のご尽力に深く感謝申し上げる次第であります。

楽器の取扱い奏法等については小松原学園女子高校吹奏楽部の指導者であった三井田安司先生に、手とり、足とりでコーチしていただき、暗中模索の中で試行錯誤を夏休みも朝8時から、夕方7時頃までの猛練習の結果、秋の運動会には、行進曲、海兵隊、会津磐梯山等数曲を演奏できるようになり、翌36年には吹奏楽コンクール県大会に初出場をして、小編成の部で第二位の成績を収める事ができました。その後、地区文化祭、体育祭、敬老会等、地域行事への参加、特に市消防団特別点検での蕨駅東口大通りから芝小までのパレードは初めての経験で、大変苦しかった事を覚えております。また、行事の参加に際しては、常に行動を共にしてきたモノがあります。何だと思いませんか!! どうやって楽器を運搬したと思いませんか!? 「リヤカー」で運んで行ったのですよ。今では全て懐かしい思い出となってしまいました。

現在は部員数も多く、県内でもトップレベルの実力を持つまでに成長しているとの事で、OBである事の喜びと誇りを感じずる次第であります。このようなすばらしい吹奏楽部に育て、ご指導いただきました諸先生方及び関係各位に対して深く感謝申し上げます。

1期	穂田 照子	江原 和彦	笠原 昇	碓井 孝尋	込田 信幸	都竹 静雄
	平田 進久	小久保美代子	秦 弓子	小山田鐘一<故人>		
2期	石田 正博	糸久 晴義	太田 信雄	神本 正行	松山 喬	山田 英治
	桜井 孝子	芝崎 和美	矢作 友子	清水 賢一	鈴木 充雄	津久井清子

3期	河井 明	黒崎 広志	込田 三郎	平田 実	室谷 昌俊	村上 亮代
	三枝 澄子	天野 清治	秋山 武芳	小林 光一		
4期	猪原 逸男	小沼 博	新藤 義夫	高野 明	古川 信一	大鐘美和子
	木村 寿子	鈴木 義男	清水貴美江	鈴木 富久	吉岡 誠	宗本 房江
5期	宮田 雅雄	島田 清美(穴戸)		小林 悟	平田 節子	

<1966〜70>

毒島先生の献身的な指導のもとで、芝中吹奏楽部は市内中学校で屈指のバンドとなり、昭和42年に開催された埼玉国体では開会式の演奏に参加しました。

9期 金子 信一

毒島先生の指導はかなり厳しいもので、うまくできないと椅子を横にして正座させられたり、スリッパではたかれたり、先生の家の方に向かって吹かされたりした人もいました。しかし、先生のスケールの大きさと熱心さは完全に部員を包み込み、尊敬し慕いながら一所懸命に練習に励みました。その結果、コンクール1部（現在の2部）金賞常連校の実力をつけるに至りました。

6期	青木 雅治	石塚 正勝	岡部 孝之	岡部 茂	権田 英二	上倉 康弘
	亀田 泰裕	黒崎 康夫	坂本 敏	東海林 明	森下 一孝	石田美智子
	鈴木 知子					
7期	鶴若 茂男	黒田登喜子	浜名 幸雄	山崎 敏雄	篠田 勝	西川 巖
	本田 茂	沢田 茂	林 美月	辻 雅子	西牧 啓子	浜野 幸子
	松永 昌子					
8期	矢延 恭子	青柳 晴樹	大塚 正己	岡田 好美	内田 敏則	池田 元己
	鶴若 正人	菅原 修	宮口 利則	鈴木 京子	小林美津子	片桐 優子
	原口 紀子	駒井きよ美	京須 信子			
9期	太田 博幸	金子 信一	斎藤 保正	斎藤 芳明	遠山 正美	尋木 正光
	浅川美弥子	神山 悦子	坂本智恵子	沢田 通子	外丸 春江	中島 道子
	橋本真由美	河内美智子(樋口)		吉田恵美子	渡辺加代子	

10期	牛田 泰正	上倉 健司	桑野 伸二	柴田 弘明	重泉 隆	鈴木 健夫
	古畑隆一郎	渡辺 伸一	小柳 亮子	吉田 昌子	柴山 尚子	白石 恵子
	本多 政江	結城 恵子				

<1971〜75>

3年連続で県コンクール小編成の部で金賞受賞を果たした後、新任の大沢先生が顧問となり、昭和49年には第1回の定期演奏会を開催したのに続き、コンクール大編成の部で銅賞に入賞しました。

15期 沢井 一 浩

早いものでこの定期演奏会も回を重ねること13回目になったが、第1回定演は私が中学一年の時開催された。なにしろ初めての行事で、先生、OBの方々は随分苦労されたことと思う。今でこそ定演は芝中吹奏楽部の行事として定着しているが、当時は楽器も中古で、充分そろってはいなかったが、初々しさがあった。一枚何百円もするポスターを手分けしてはり、チケットを友人達に配り、八方手は尽したものの、我々の一番気になったのが観客の入り具合であった。幕の向うの客席には、まばらの人しかいなかったらどうしょうと……。幸いに当日は我々の心配をよそに、川口産業会館のホールいっぱいの観客で、つたない演奏をお聞かせすることになった。我々の方は緊張の連続で、アンサンブルの途中、譜面台が回転するし、ひな段から椅子は落とすなどのハプニングはあったが、あっという間に時間は過ぎてしまった。

曲はジェイコブ作曲のオリジナル組曲と新世界より第四楽章がメインだった。

11期	今泉 育雄	加藤 忠	野沢 成芳	奈良岡義弘	村上 孝之	脇野 雅広
	赤間とし子	稻毛佳代子	井上真奈美	岡田 伸子	大窪 孝枝	奥山 節子
	小町 雅枝	斎藤 典子	佐野八千代	島田裕美子	松下 智子	矢作 幸子
12期	荒谷 郁夫	金子 充	鈴木 美紀	中島 淳	松村 茂	矢作 厚生
	渡辺 孝夫	飛鳥 弘子	小島 洋子	白井 政江	中島 潤子	中田まゆみ
	広井公美子	峯岸 優子	村上 尚子	山中 靖子		
13期	浅井 祥明	福田 彰	横尾 博司	菊地佐和子	長弘 幸恵	敷原寿美子
	榎本由紀子	久保谷秀樹	小見 英彰	村上 融	敷地 文子	向井 正治
	坂本久美子	佐藤 節子	須賀 令子	長岡富士子	矢島由紀子	鈴木 保子

14期	多田 容子	大野 晴美	中尾 純子	玉上 陽子	木村 圭子	梅津 典子
	三川かすみ	古田真由美	飛鳥美智子	岩崎 洋子	佐々木今日子(池田)	
	野本 美恵	庄野八重子	磯部 真一	小幡 文夫		
15期	尾高 博子	稲垣 恵美	清田 和子	金子知恵子	塚田美由紀	大沢 克江
	沢田 京子	増田 明美	麻生 法子	佐藤 尚子	奥原 俊彦	沢井 一浩
	浅沼 順子(斎藤)		関根 佳子(中野)			

<1976〜80>

この時期に芝中吹奏楽部は質、人数ともに向上し、60〜80人の部員を擁するクラブになりました。昭和52年にはコンクール県大会で銀賞に入賞しました。創部20周年記念演奏会では生沢先生自作の曲などの記念演奏も行なわれました。

17期 谷 田 栄

私が現役部員だったのは1975〜78年だから、もう10年も昔のこととなってしまった。そのころの練習場は、夏はやけに日当たりがよく冬は風通しのよい、そしてワックスのにおいがなつかしい木造校舎の二階の端、この音楽室であった。木造校舎というのは、当時としても相当に古めかしく、使い勝手も決してよくなかったが、すぐに床や壁が抜ける反面直ちに補修できるため、まだまだあばれざかりの中学生にとっては、校舎の外とかかわらぬ、時にはそれ以上に冒険のできる遊び場であった。

私の同級生たちは、そんな中で床を抜いたりガラスを割ったりした回数では一番かもしれない。何せ放課後、木造校舎を使用していたのがブラバンだけであったのをいいことに、先生の出張のときなど、パート練習といえば軟式のテニスボールとほうきを持ち出して廊下で野球（当然ガラスが割れる）階段ではどこから飛び降りられるかをきそい、（これまた当然に床が抜ける）、果ては、どこをどう登ったのか天井にもぐり込み、忍者よろしく蜘蛛の巣の間を散策し梁から足をすべらし、とある教室の天井板をぶち抜いた輩もいる。

このように書くと私達が全然練習しなかった様に思われるかもしれないが、何の、コンクールでの成績はもう一歩で関東大会というところまで行ったし、定演も超満員の盛況ぶりであった。しかし、コンクールや定演の感激が何より胸にしみたのは、それらが終わり日も暮れたころ、楽器をもどしに真暗な音楽室に帰ってきた瞬間だった様に思う。昼間とは違った雰囲気と一日(一年?)の疲れとが相まって、感傷にひたるにはもってこいだ。ギシギシと鳴る床板も妙にシリアスで胸を高鳴らせた。今はない校舎だが、その隅々まで知っているのはきっと私達だ、とひそかに思っている。

16期	稲川美恵子	片桐 徳子	鎌田しのぶ	小泉 敬子	後藤 春美	佐藤 千春
	永井 紀子	益田 京子	氏家 崇子	内田真由美	中村千代子	斎藤 節子
	森 英子	安藤 俊江	遠藤真樹子	三枝由美子	棚橋 裕子	大平 賢
	岡村 裕司	小林 徳道	佐藤 律子	三反崎優子	大野 雅美	牧園真理子
	越川 博	高橋 浩司	丸山 喜弘	岩井三津義	梶山 美夏	関 美幸
	上原 模子	吉田 勝子				

17期	根本 朋子	高橋 美香	斎藤 直美	密昭 佳苗	藤野 紀子	梅津奈緒子
	高橋 幸子	橋本 貴子	大崎美代子	村瀬いそ子	石井 智子	森 邦子
	清田 恵子	須賀 幸代	小幡 正夫	中尾 弘之	中館 節子	黒沢 秀人
	氏家 左恵	三沢 典子	吉沢 美幸	野本 陽一	谷田 栄	庭野 宏行
	矢口 俊秀	二木 範恵	荒川 弥生			

18期	小林 知子	杉山 容子	渡辺 理恵	松村 敦子	根岸 良江	五月女訓子
	高橋ゆかり	佐々木さゆり	渡辺多美子	川見 利恵	松本 良子	福島 美幸
	山風呂 紀	高原 慶夫	藤井みどり	古田 靖志	網取真粧美	小林 悦子
	松本 明代	山名 安美	石田 一義	永井 保光		

19期	金子 ゆき	安達みすず	佐野 美香	井原 直美	堀 妙子	永原美千代
	藤野 明子	益田恵理子	宮崎みどり	岩瀬 啓子	四柳 弘美	志村 栄子
	河井みゆき	益子 緑	川川由紀枝	神島千登世	広林 三枝	森 早苗
	渡辺直穂美	内藤 則子	林 みどり	藤波 佳織		

20期	会田 裕子	伊東 昭子	若尾 里	大川原美代子	荻田 美和	片桐 春美
	渡辺 明美	片野智佳子	西田智恵子	笠原 誠子	高井真由美	志村 享子
	桑原みや子	松村 真純	坂井 幸子	大栗 徳子	木村 和江	斎藤 環
	深谷 明子	小川真由美	坪田 章利	五月女晴彦	寺杣 智佐	渡真利規子
	本橋 裕香	西田 明子	谷島 夏美	岡野 真理	山口 直美	小槌 一男
	藁谷 千鶴	増田 和彦	鳥原 葉子	久郷美和子	高橋佐江子	越阪部幸子

<1981〜85>

昭和57年コンクール県大会で金賞、最優秀賞に入賞し、県代表として出場した関東大会でも並いる強豪校の中で金賞に入賞しました。この後、生沢先生は県吹奏楽連盟の事務局長として県内の吹奏楽の普及に寄与しています。

22期 赤羽目 欣 也

僕らの代は40人以上もいて3年生になったら楽しみだと言われていました。3年の夏には初めての試み“合宿”にチャレンジし、大きな成果を得ました。正味2日間で通常練習の一週間分を消化するような日程でした。長い練習についていけるか？ だらけるのではないかと心配されましたが、そんな事はなく、それどころか音も意識も良くなりました。千葉の山の中、古いお寺で夏のむし暑い日々を耐えたおかげだと思います。

そしてコンクールの幕あけ、東大会で思わず金賞！ みんな思ってもみない事（半分は期待していたけれど）に涙がポロッ。ほとんど天にも昇るような気持ちでした。やった、これで選考会に行ける、もしかしたら関東大会もと……。

選考会では金賞のバンドばかりの中で最優秀に選ばれ、みんなあ然としてしまいました。そう言えば演奏開始時刻は東大会、選考会共に11時45分。夏休みの練習で初めて2曲通した時もちょうど同じくらいの時刻。ム!? これは何かある！ と思っていると関東大会でも又同じ時刻。これはいける!! と思いつつ演奏を終えると予感どおり金賞！ やったやった、全国大会に行けると思ったがそこに落とし穴。選ばれた5つの金賞のうち、全国へ行けるのは3つ。うちの学校は残りの2つに入り今までの夢のような日々は幕を閉じたのです。

21期	細谷 佳代	山崎絵里香	関口 直子	福島 京子	山上 健一	宮沢 祥子
	山風呂 薫	小出 隆	原谷美和子	若林 佳子	丸野 綾子	
22期	伊藤 広美	原田 千恵	水間由美子	横川 裕子	榎本 晴美	村山 明美
	坂井 裕子	白井 恵	芝田千恵子	富山 雅代	平賀 千治	角倉 洋子
	三上 聡美	千葉奈緒美	森田 幸枝	森林美千子	河内 悦子	石井 順子
	桃田亜矢子	杉山 興子	森屋 恵	岡沢 美和	栗原 栄子	山岡 賢二
	中川 弓子	福地 昌彦	安藤 勲	臼倉 邦子	青木みどり	山口 典子

竹内 直美	矢沢見代子	赤羽目欣也	泉田 初美	外山 宏美	佐久間美幸
福山 伸夫	戸田美香子	中島 由浩	佐竹 弘行	高橋 洋子	上野山道代
佐藤 卓志	岡村能理子				

23期	伊藤 雅枝	岩佐 奈美	伊藤 祐子	浜辺史奈子	花岡 弥生	蓮見 聖子
	長根充名美	稲川 綾子	天宮 由喜	岡田 智	三田 貴志	稲垣 友久
	千葉 朋子	三上 千夏	安財 由佳	栗津 拓二		

24期	川田 温子	矢作 薫	上野山裕子	百瀬 典子	柳原 友美	宮田由貴子
	荒川 友美	谷岡 猛	福井 真	田辺 良江	淡田 素康	田村 秀行
	高橋 信也	黒相千亜紀	平田 彰子	塚田 伸幸	山田 京子	原谷 直元
	山辺奈美子	河井由紀子				

